地域密着型インターンシップIN福島
最終報告

2011.9.30

インターンシップ第9期生
ニックネーム：つぼちゃん

目次

1. 研修参加目的
2. 研修内容
- 柳津温泉「花ホテルたきのや」
- モニターツアー
- 生産者訪問
- 山際食彩工房
- 物産販売
- 仮設住宅訪問
- 沿岸部視察

3. 研修のまとめと今後
- どう伝えていくか
- 仕事の基本について

1. 研修目的

東日本大震災で甚大な被害を受けた福島の復興に携わりながら、被災された方が何を伝えたいと思っているかを知ること。

その上で自分は何を伝えるべきと思うか、自分が今後果たし得る役割についても考えること。

2. 研修内容
〈柳津温泉「花ホテルたきのや」〉

研修日程:9/2～3:水害片付け　9/20～28:寸劇考案

（概要）

浸水被害の片付け、観光客への道先案内寸劇の考案

（役割）

荷降ろし等の片付け、寸劇のシナリオ考案

（気付き・学び）

・ホテルでの講演会や、今回の寸劇など、外部の人を取り込むことで、地域内部が変わっていく可能性。

・観光の仕掛け作りの難しさ。人はどうすれば感動するか。観客の視点は持てているか。

・福島県の観光全般に危険なイメージが定着している現実。その認識の上で理想論でなく現実的な戦略を練る必要性。

（その他感想）

初の地域研修で浸水被害の片付けをお手伝いし、後に営業再開した状況を見れたことに感動。

外の人を巻き込み次々にアイデアを打ち出す支配人の塩田さんのエネルギッシュな姿が印象的だった。

福満虚空蔵尊円蔵寺

2. 研修内容
〈モニターツアー〉

研修日程:9/1:ラーメンツアー　9/5～18:メディア向けツアー

（概要）

会津観光の安全性PRのため外部の人を招き発信してもらう企画。

（役割）

書類作成、会場設営＆映像・音響担当、食事準備

（気付き・学び）

・修学旅行9割減、旅行ツアー催行数の激減など観光に対する風評被害の甚大さ。
・全県を同一視して敬遠される風潮。
・メディアの発信力への期待。報道だけでなくドラマや映画も。
・大勢のスタッフや客の動きを予測、把握して対応していく難しさ。

（その他感想）

事前準備の段階で仕事の基本的なルールについて学ぶことができた。

メディア向けツアー2日目

2. 研修内容
〈生産者訪問〉

研修日程:9/13:渡部柿園、9/15:会津地鶏みしまや、9/24:交流会、9/26:片桐さん

（概要）

農作業、養鶏作業のお手伝い、地元異業種交流会への参加

（役割）

柿園反射シート敷き、鶏舎掃除、BBQ準備、稲刈り

（気付き・学び）

・生産者の日々の地道な苦労。
・原発周辺住民への複雑な思い。同じ県内でも意識の差は大きい。（渡部柿園）
・震災により飼料米生産者被災→取引先変更による支障。震災被害の広範さ。（みしまや）
・唯一県名の付いた原発。福島全県にイメージ固着。
・線量の高低で生活が天と地に分かれる現実。自己負担で線量調査。（片桐さん）

コンバインでの稲刈り

2. 研修内容
〈山際食彩工房〉

研修日程:9/7～9/9

（概要）

地産地消の商品開発、地産地消や食育に関する講義

（役割）

カッパラーの製造、その他食材の下準備

（気付き・学び）

・山際さんのお話。人の育て方。どうやって人と差別化し自分独自の領域を持つか。

・震災による内定取消。会津の雇用状況にも影響。

食の乱れは心の乱れ

（その他感想）

3日間お世話になったこともあり、奥さんや娘さんとケーキバイキングに行くなど親しくなれた。

2. 研修内容
〈物産販売〉

研修日程:9/5～9/11:宇都宮物販　9/14:玉川こぶしの里　9/15～9/23:新潟物販

（概要）

福島県産の特産品の良さ、安全性をPRするため、県外で物産を販売。売上はニイダヤ水産さんの真空機購入に充てる。

（役割）

宇都宮:書類作り、準備物用意　新潟:リーダー

（気付き・学び）

・商品への愛。商品への理解が深ければ深い程説得力は増し売上も増える。
・事前準備を万全にすれば本番は楽しめる。ディスプレイの方法など詳細まで検討。
・全体を見ることの難しさ。現場に対応しつつ鳥瞰。
・こぶしの里物産展の受け入れ拒否。新潟では福島県産と分かると購入をやめる方も。

（その他感想）

玉川道の駅こぶしの里を訪問し、試食・試飲も含めて商品に対する理解を深めたことで、新潟での売上増加に繋がった。

新潟古町での物産販売

2. 研修内容
〈仮設住宅訪問〉

研修日程:9/2　9/12:料理教室　9/10:楢葉町仮設住宅でのカラオケ大会

（概要）

仮設住民と研修生・仮設住民同士の交流促進、仮設住民に活力を与えるための企画。

（役割）

料理教室:料理作り参加　カラオケ:設営、機材操作

（気付き・学び）

・震災時の原発周辺での状況。
・原発周辺地域の報道量の少なさへの不満。
・仮設住宅の不便さ。大きさや立地など。
・仮設住民と受け入れ自治体の共存の形の模索。
・今後故郷に帰れない見通しが濃厚だが、淡い期待や支援・補助のため宙ぶらりんな現状。

（その他感想）

カラオケ大会で、一方で震災で亡くなった奥さんを偲ぶお爺さん、他方で元気一杯に歌う少女達、対象的な二組が印象に残る。

仮設住宅料理教室

2. 研修内容
〈浜通り視察〉

研修日程:9/19:相馬市　9/29:南相馬市

（概要）

相馬市:沿岸部　南相馬市:沿岸部、除染作業、支援物資倉庫など

（気付き・学び）

・津波の破壊力の恐ろしさ。海岸から2kmも家の無くなった野原が広がり道だけが続く光景。
・原発問題のため復興が進まない。出ていく住民、帰って来ない住民。
・支援、補助漬けになり自立しない避難者。
・地域による支援物資やボランティアの偏り。

相馬港

（その他感想）

南相馬では地元のホテル経営者による案内。震災直後の状況は壮絶なものだったようだ。
また被災者支援を行ってきた中で、人間の私利私欲、惰性に走る本性を垣間見、活動に疑問を持ったという。
しかし自分にできることをしようという姿が印象的だった。

3. 研修のまとめと今後
〈どう伝えていくか〉

・目に見えにくい問題

農作物・観光への風評被害

原発周辺の状況

避難民の抱える問題　　etc…

→美談やセンセーショナルな部分だけでは捉えきれない事実。津波被害の宮城・岩手より復興の道のりは険しい。

現場で見聞きした問題をキレイ事でまとめず、出来るだけありのまま伝えたい

・イメージによる被害

福島全県に等しく原発影響があるかのような印象

茨城、宮城よりむしろ遠い原発から100km離れた会津でも深刻な風評被害

→正しい知識の上での個人の価値判断は自由

ただ、安直な印象を与えないように伝えていく

誤解を招くイメージを植え付けていては被害は広がるのみ

3. 研修のまとめと今後
〈仕事の基本〉

・会議の役割。積極的発言で情報共有し全体像を把握する場。
・報連相の重要性。早目早目のコミュニケーションが結果的に早く、望ましい仕事に繋がる。
・資料作りの難しさ。誰が見ても分かるような配慮。
・仕事の段取り。先へ先への予測、想像力が不可欠。
・仕事のクロージング。やりっぱなしにしないこと。
・報告の仕方。相手の時間をいただいているという気持ち。

→社会人となるまで反芻し、実践していく